



羽田ミヤコタナゴ通信



通信

皆さんこんにちは、馬頭高校水産クラブ会長の本澤です。私がミヤコタナゴを知ったのは小学生の時でしたが、実際に目にしたのは高校に入ってからでした。実際に見た感想は「小さくて綺麗だな」と思いました。私は釣りが好きで、小学校の頃は家でゲームをするより、近くの川や池に行き、バス釣りをすることが日課となっていました。高校生になって、周りには雑魚釣りをする人や、海釣りをする人がいる中、水産科3年一の変わり者、齋藤拓輝くん(ミヤコタナゴ研究班の一員)はタナゴ釣りが趣味でした。私も齋藤くんと一緒にタナゴ釣りに行き、タナゴについて詳しくなりました。タナゴ釣りを通して、羽田生息地にミヤコタナゴが泳いでいる姿が見たい!と思うようになりました。

先日、私たち水産科3年全員で、羽田生息地において生物調査に参加しました。私たち水産科は、1年間に2回程度、羽田生息地へ行き地域の方々や泥上げ作業や貝調査を行っています。今回の生物調査は、去年確認されたミヤコタナゴを追い求め、水路の始まりから終わりまで網を入れミヤコタナゴを探すという、とてもロマンを感じる調査でした。残念ながらミヤコタナゴを確認することはできませんでしたが、メダカをたくさん確認することができました。ミヤコタナゴ保存会の方や専門家の方、なかがわ水遊園の方々に指導をしてもらいながら、楽しく有意義な生物調査を行うことができました。また毎回羽田生息地で作業をする度に、みんなが作業内容を理解し、てきぱき作業することができました。さらに専門家の方や地域の方と休憩中に水産科の実習の内容や趣味など色々な話をし、そのことで皆様との結束が強まっていくのを感じています。馬頭高校水産科は地域との連携を大切に、泥上げ作業や生物調査を継続的に行うことで、羽田生息地にミヤコタナゴの帰省ラッシュが始まることを期待しています。

(栃木県立馬頭高等学校 水産科 3年 本澤 彰斗)

トピック

- 1 こちら羽田小5年1組!! ミヤコタナゴ研究所~第2話~
- 2 今年も羽田沼の水を抜きました。水を抜いたら・・・
- 3 私たちが行います!!

発行元:羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会
発行事務局:農村環境クリエト



2019年羽田太々神楽の1コマ
~ 種蒔 ~

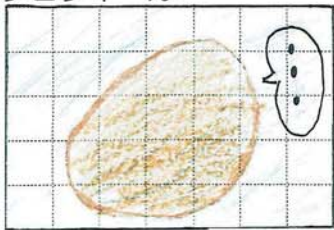
1 こちら羽田小5年1組 !! ミヤコタナゴ研究所

前回の通信でも紹介しました『こちら羽田小5年1組!! ミヤコタナゴ研究所』より続きのお話です。児童が素晴らしい感性で取りまとめた作品を紹介させていただきます。

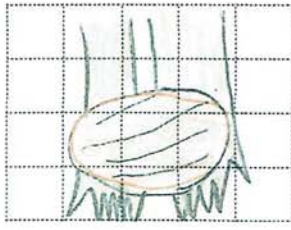
第2話

☆教えて! 二枚貝先生!

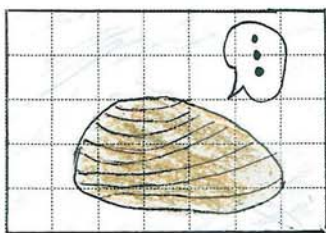
○ プロフィール



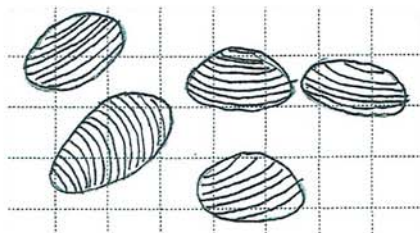
ドブガイ先生
→すごくでかい



ドブガイが成長すると
→2~3年で大人の両手
ぐらいの大きさに成長!!



マツカサガイ先生
→大きめのサイズ



マツカサガイは
→川に1万匹放流しても生きていら
れたのは5~6匹だけです。

ミヤコタナゴママさんにインタビュー

『どんな貝にたまごを産みますか?』

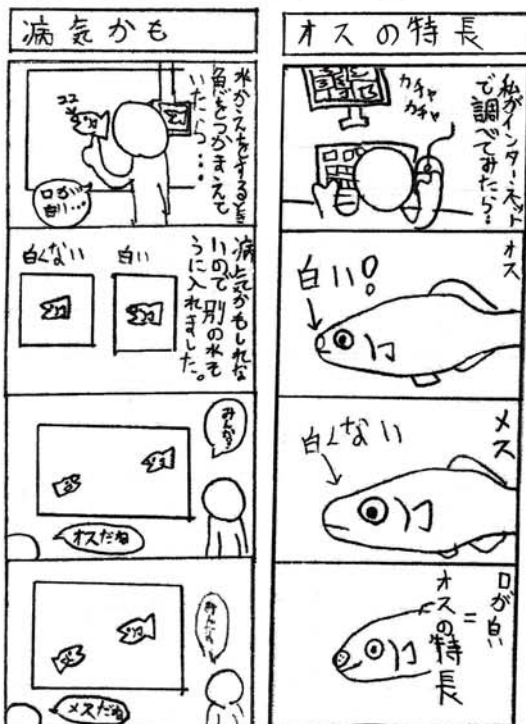
『基本はドブガイとマツカサガイです。
羽田の流行だとマツカサガイのみた
まごを産みますよ』



☆ミヤコタナゴ事件簿

その1 口が白い病事件

ミヤコタナゴの口が白いことに気がつ
いたのは、水かえのときでした。



口が白いことはオスの特徴みたいです。
病気じゃなくてホッとしました。

その2 ポウフラ事件

ミヤコタナゴのあかちゃんがうまれたとさわいでいたら、
な、な、なんと・・・ポウフラだった!!



※ ポウフラ

カの幼虫の俗称。
すべての種類が水中生活するが、食性はいろいろである。一般には有機物・微生物を口のまわりのブラシ状の毛でこするようにして食べる。ほかのポウフラを食べる肉食性のももある。空気呼吸をするので尾端に呼吸管がある。



<https://kids.gakken.co.jp/jiten/6/60025410.html>



2 今年も羽田沼の水を抜きました。水を抜いたら・・・

昨年に引き続き、今年も羽田沼の底質改善や水質維持のため、各関係者と協議をしながら、羽田沼の干し上げ作業を実施しました。8月25日より羽田沼の水位を徐々に下げ始め、9月8日に底樋（そこひ）を抜き、干し上げ作業が開始されました。今年は6月からの降水量が多く、例年よりも羽田沼の湛水量が多いことから、作業の安全を考慮して徐々に水位を下げていく手法をとったため、当初計画よりも2週間ほど水を抜くのに時間がかかりました。



水を抜いた羽田沼

また羽田沼の泥が生息水路へ流入しないように、地獄堀から生息水路への取水ゲートは完全に締め切り、貝や魚類に影響を与えないように対策を行いました。生息水路へは周辺水田からの排水や浸みだし水が流れこんでいるため、生息水路の水が完全になくなることはありませんが、万が一の場合は、水田用のポンプを稼働させて対応する準備もあわせて行いました。

干し上げ期間中には、昨年実施した魚類相調査を9月17日に馬頭高校水産科の生徒（3年生）の協力を得て行いました。昨年は羽田沼、地獄堀、生息水路での調査となりましたが、今年は生息水路の魚類相を把握するため規模を縮小して実施しました。調査は生息水路を上流部、中流部、下流部の3つに分け、それぞれの範囲を下流側から網で水路内の魚類をすくい取る方法で行いました。調査の結果については、表1、

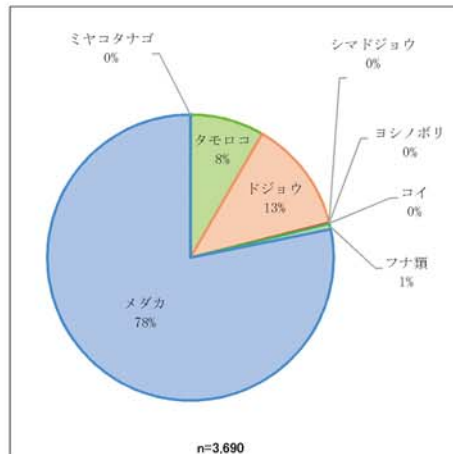


魚類相調査の様子 中流班

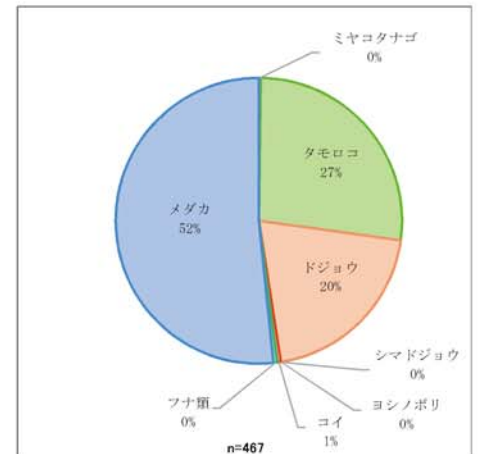
グラフ1、2になります。捕獲された魚類数に昨年と今年では大きな違いがありますが、魚種の構成については同じような結果となりました。今後もモニタリングを継続して行い、水路環境の変化や羽田沼の干し上げ効果等について、生き物からのメッセージを受け取りたいと考えています。

表1 生息水路の捕獲魚類結果
(2018年と2019年で調査の方法が異なります)

確認魚種	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)
ミヤコタナゴ	1	0
タモロコ	126	308
ドジョウ	95	469
シマドジョウ	0	1
ヨシノボリ	0	0
コイ	2	4
フナ類	2	23
メダカ	241	2,885
合計	467	3,690



グラフ1 2019年の魚類相



グラフ2 2018年の魚類相

新たなトピック（話題）としては、干し上げ作業を開始してから1週間後の9月14日には、国の特別天然記念物で絶滅危惧種のコウノトリ1羽（千葉県野田市で放鳥された『きずな』）が羽田沼に飛来し（※）、9月27日までの約2週間羽田沼に



羽田沼に飛来したコウノトリ ※



コウノトリを撮影しようと集まる写真愛好家

滞在し、多くの写真愛好家を楽しませました。これも何らかのメッセージなのかもしれません。

（※ コウノトリの写真は刑部 節 氏の撮影・提供によるものです）

今年の干し上げ作業は、予定通り10月6日に終了し底樋が塞がれ湛水が開始されました。今後、干し上げ作業等について検証し、来年につなげていきたいと考えています。

3 私たちが行います!!

今年から新たな取組として、馬頭高校水産科の生徒と羽田小学校の5年生児童による、生息水路の水質調査が開始されました。今までは環境省が行っていた水質調査ですが、本通信でも紹介しているように、素晴らしい感性を持った羽田小学校の児童が水質調査を行うことにより、何か新しい発見があるのではないかなことから、馬頭高校が水産実習で行っているパックテストを用いた水質調査により、今まで環境省が実施してきた水質分析項目と同じ項目を行うこととなりました。水質調査は5年生の総合的な学習の時間内で行うことになり、今年度は9月、10月、11月、1月、2月の計5回実施します。授業では馬頭高校水産科タナゴ班の4名が先生役を務め、授業で使用するプリントやスライドについても、5年生が学習する内容に合わせてすべてタナゴ班の4名が作成します。また、単に水質を調べるのではなく、実際に現地で分析する水質検体を自分たちで採取し、その時の羽田沼や生息水路、周辺の様子などあわせて記録する方向で今年度は実施していく計画です。高校生と小学生が一緒になって、問題や課題解決に向けた取り組みを行っていくことで、きっと問題解決の糸口が見つかるものと期待しています。

9月と10月に行われた水質調査（授業の様子）について、皆さんへ紹介します。

第1回 9月12日（木）

5時間目：羽田ミヤコタナゴ生息地について学ぶ（5年教室）

5年生教室でミヤコタナゴが現在生息している地域や羽田地区の現状などについて学びました。わかりやすいプリントが用意されました。



6時間目：羽田沼の水源や現状について学ぶ（羽田沼）

羽田沼の干し上げが始まった状況を確認し、沼の水を抜いた時でない確認できない湧水部もあわせて確認しました。湧水はとても冷たい!!



9月12日

羽田ミヤコタナゴ生息地について学んでみよう ステップ1

年 名前

今日のめあて

①ミヤコタナゴと羽田生息地について理解を深めよう

②みんなが知っていることを教えて!

1. ミヤコタナゴとは・・・?

①図の()で、絶滅危惧1A類に指定されている希少淡水魚

②()に指定されている淡水魚(4種類)

②ミヤコタナゴが自然の環境で生息しているのはどこだろうか?

図：関東圏域(1都6県)

今:()県と()県

③魚の命と深い、生きた()に感謝する。

→メスは繁殖期になると()が伸びる。

→オスは繁殖期になると()が出る。

第2回 10月10日（木）

5時間目：水質調査の検体採水、水質調査の手順や内容について学ぶ

いよいよ水質調査が始まります。実際に羽田沼の水を採水し理科室に持ち帰りました。まずはパックテストや透視度計の使い方を学びます。



6時間目：水質調査（パックテスト、透視度）

上流班と下流班の2グループに分かれ、水質調査開始です。初めてのパックテストに最初は戸惑いましたが、徐々に慣れてきました。透視度も皆さんで確認しながら計測しました。



10月10日

水質調査について学んでみよう ステップ1

年 名前

今日のめあて

①水質(水の状態)を調べる方法を学ぶ

②羽田生息地の水質を調べてみよう

●水質調査項目

1. 水温

2. 透視度：水の透明度

3. 水質パックテスト

①(pH)：水の酸性、アルカリ性の程度を示す数値

②(COD)：水の汚れ度を表し、数値が大きいほど汚れた水を表す

※有機物(植物やフランクtonの餌)を分解するために必要な酸素の量

③(アンモニウム態窒素)：数値が大きいほど、養魚・生活排水が流れ込み汚れた水を表す

※ 水中の微生物や細菌の働きにより分解(水にとって良い働き)

④(溶 氧 態 窒 素)：魚たちに酸素が足りないの

※ 水中の微生物や細菌の働きにより分解(水にとって良い働き)

⑤(硝 素 態 窒 素)：数値が小さいほど、生活排水が少なくてきれいな水を表す

⑥(リン酸イオン)：肥料やフランクtonの餌

※数値が大きいほど、養魚や生活排水が流れ込み汚れた水を表す

今日のめあて

学んだこと、まよふかを持ったことを書いてみよう!

この水質調査は、今年から5か年の計画で実施していきます。皆様方のご協力よろしくお願いたします。

問い合わせ先：大田原市教育委員会事務局文化振興課文化財係
 TEL 0287-23-3135
 FAX 0287-23-3138
 E-mail bunka@city.ohkawara.tochigi.jp